

## 2 新しいまちなかインフラ創出の試み - 「クール&ホットステーション」の検討

増田 幸宏<sup>1)</sup>、望月 計<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 芝浦工業大学 システム理工学部、<sup>2)</sup> 株式会社 タニタ

### 【研究背景】

都市の高温化の進展により夏季の暑熱環境は人間にとって非常に厳しいものとなっている。都市の高温化が深刻化していく中でも「安心して歩いて暮らせる都市づくり」を実現することが重要である。特に夏季に屋外を徒歩により移動する際には熱中症のリスクが高くなる。熱中症の危険性については、命に関わる重要な課題として認識する必要がある。これからは、環境施策と都市政策が連携することで、熱中症対策をまちづくりの一環として取り組む視点が重要である。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会では、外国からの訪問者やボランティアスタッフを含む多くの人々がまちの中を歩行する。初めて訪問する地域において屋外に長時間滞在せざるを得ない状況では熱中症の危険が危惧される。都市の危機管理の観点から、熱中症の予防、早期発見、救急搬送等の総合的な対策をバランスよく進める必要がある。

一方で、現在の都市屋外空間において、長い時間信号待ちをする交差点や待ち合わせ場所となっている広場が厳しい日射にさらされていたり、休憩のために街路上に設置されているベンチが日射を受けて高温になっているなど、必ずしも現在のまちづくりは暑熱環境に配慮して行われているものではない。

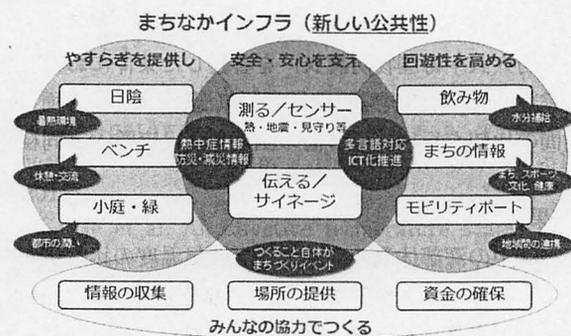
### 【報告概要】

以上のような背景のもと、人々が安全に屋外を移動できるようにするため、人が集まる場所に「クール&ホットステーション」を設置することを検討した事例を紹介する。「クール&ホットステーション」とは、路上における熱中症の発生を抑制するため、まちなかに設置する新たな多機能空間である。こうした多機能空間をまちづくりと連動して検討することが重要である。

「クール&ホットステーション」は、休憩スポット（日陰で座れる、休める、暑さから逃れられる、水分補給ができる）、情報拠点（熱中症危険通知や熱中症予防情報が表示される、休憩をしたり涼むことのできる近隣施設・建物の情報が提供される、地震等災害時の防災情報

報が提供される、目的地までの経路の中で日陰の多いルートが表示される）、交流拠点（救急スタッフの待機・活動拠点となる、地震災害時にもよりどころとなる、まち歩きに有益な地域の情報が得られる、平常時より地域の活動やコミュニティを豊かにするための拠点となる、地域の防犯に寄与する）の機能を兼ね備えた、まちなかの新しい公共性を担う空間としての役割を果たすことが期待される。

公有地、民地を問わず、都市内に「クール&ホットステーション」を創出していく試みは、熱中症予防だけでなく、地震災害時の混乱回避や、地域の回遊性を高めることによる地域の活性化、健康増進（ウェルネス）の取り組みとの連携など、活力と魅力ある都市づくりにも貢献する。「クール&ホットステーション」創出の取り組みが、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーとして、空間屋外空間を、安全・安心、かつ豊かで魅力的なものとしていくための契機となることを期待するものである。



### 略歴

芝浦工業大学システム理工学部教授、一般社団法人レジリエンス協会副会長、日本危機管理学会副会長、国立大学法人豊橋技術科学大学客員教授。早稲田大学大学院修了。早稲田大学高等研究所准教授、国立大学法人豊橋技術科学大学大学院准教授を経て2014年より芝浦工業大学准教授、2018年より現職。専門は建築・都市

環境工学、設備工学。建築・都市のレジリエンス工学や環境インフラ構築に関する研究に取り組む。博士（工学）